

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901956		
法人名	医療法人　ながら医院		
事業所名	グループホーム　月華		
所在地	〒812-0014　福岡県福岡市博多区比恵町12番21号　TEL 092-477-3123		
自己評価作成日	平成28年02月12日	評価結果確定日	平成28年03月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成28年03月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ADLの維持できるように利用者に適したケアを考え、その人らしい生活ができるように支援を行っている。昼間看護師が常勤し、専門的立場からの健康管理を徹底している。また、月に2回理学療法士が訪問し、体操や身体機能維持するための指導を行っている。母体の医院との協力体制も整っており、緊急時など迅速に24時間体制で支援をしている。看取りについても定期的な勉強会を行い、認識を高め体制作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜の名所山王公園の近隣に位置し、趣のある和風の玄関を入ると、天窓の柔らかな陽射しと手芸作品が飾られ、清潔で温もりのある雰囲気が漂うグループホーム「月華」がある。母体が医療法人で、看護師の配置を充実させて医療への細やかな配慮があり、重度化や看取りの協力体制が確立し、利用者の健康管理は万全である。理学療法士による利用者のADLの維持、向上にも効果を奏している。ホームの一階で開催されるサロンは地域のサークル活動の場となっており、地域のボランティアや保育園児との交流の輪が広がっている。管理者を中心に、看護師と介護職員の協働による介護は、利用者や家族から、安心と信頼が得られ、「その人らしく」を尊重し、目線を合わせ寄り添った個別ケアは、利用者の明るさと、元気を取り戻し、見守る家族からは喜びと感謝に包まれ、深い信頼関係が築かれているグループホーム「月華」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示している。全体会議の際に理念について話し合い、それに基づいたサービスが提供できるように取り組みを行っている。各自の名札の裏にも理念を記載し遂行している。	ホーム独自の理念を掲げ、職員は理念の意義を理解し、利用者一人ひとりの個性や生活環境に配慮した暮らしが出来るように取り組んでいる。また、職員の名札の裏に理念を記載し常に理念を意識し、介護に迷ったり、悩んだ時には、理念を読み返し自分を取り戻している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃や夏祭り、近所の幼稚園の運動会に入居者と参加している。	利用者と職員は、町内会の一員として、地域の夏祭りや清掃活動、幼稚園の運動会に参加し、ホームの行事には、地域住民やボランティアが参加して、地域交流の輪が広がっている。また、保育園児の訪問は、利用者の楽しい時間であり、生きる力を引き出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一階のサロンで毎週行われている地域のサロンに参加している。地域の方に夏祭りや敬老会などの行事に定期的に参加してもらい交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容や評価の取り組みについて報告し、意見交換を行ってサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、諸事情により定期開催が困難であるが、開催時にはホームの現状や取組みを伝え、参加委員から要望や情報を提案して貰い、有意義な会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についてや入居に関する事について行政担当者に電話で連絡を取り相談している。	行政担当窓口にて、疑問点や困難事例、事故等を電話等で相談し情報交換している。運営推進会議は、行政や地域包括支援センターへの定期的参加の呼び掛けが出来ておらず、行政職員の参加が出来ていないので今後の課題として取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関や居室には、鍵をかけていない。各ユニットの玄関には、人感センサーを設置している。マニュアルを用いた研修を行い、拘束をせずに行えるケアを話し合い取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を行い、言葉や薬の抑制も含めた拘束が、利用者に与える弊害について職員が理解し、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、「身体拘束をしない・させない」を合言葉にし、介護サービスの実践に取り組んでいる。また、各ユニット毎の玄関は日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修参加や勉強会を行い、常に認識を持たせ防止に取り組んでいる。皮下出血を起こしやすい入居者には、定期的にボディチェックを行い、不自然な傷等がないか確認している。ケアを行っている中で何か問題が発生していないか等、全体会議の際に話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、制度の内容を学習する機会を作っている。また、必要性を理解し、活用できるようにパンフレットを準備し自己学習できるようにしている。	現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいないが、職員研修の中で、制度の勉強会を行い、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や、申請手続きについて説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、わかりやすい言葉に置き換えて、ゆっくり丁寧にご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の設置や窓口を作り、面会時や家族会、電話での相談など利用して家族からの意見や思いの表出に努めている。苦情や相談を受けた時は、苦情対策委員会で検討し今後のサービス反映につなげている。	職員は常に利用者に寄り添い、思いや意向を聞き出し、家族面会や行事参加の時に、利用者の希望や健康状態、生活状況等を報告し、家族から意見や要望を聴き取り、利用者の介護計画作成やホームの運営に活かせるように取り組んでいる。また、玄関に意見箱を設置し、来訪者の意見や要望が出せる環境を整えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議で出た意見をまとめ、全体会議で検討しケアに反映させている。職員の個人面談を定期的に行い、意見を出す機会を作っている。	ユニット会議を定期的に行い、管理者は、職員の意見や要望、アイデア等を聴き取り、出された意見や要望は、ホーム運営や業務改善に活かせるように取り組んでいる。また、管理者は、職員の個人面談を定期的の実施し、職員の悩みや心配事にも相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の自己評価で自分自身を振り返り、向上心を持って働けるように資格取得の支援も行っている。また、会議などで現場の報告を聞きながら意見を取り入れ働きやすい環境を作っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、年齢や経験の有無の制限は行っていない。面接後に職場体験を実施し、本人の意思を確認した上で採用を決めている。休みの希望などは、可能な限り調整している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先し、面接後に職場体験をして、採用を決定している。職員の休憩時間、希望休、勤務体制に配慮し、職員が、生き生きと働きやすい職場環境を目指している。また、管理者は、職員の特技や能力を把握し、役割分担や勤務体制に配慮し、職員の意欲に繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に個人の尊厳についての研修を行い、各自考える機会を作っている。入居者への対応方法や日々の業務などに反映できるようにしている。	毎月の会議や毎日の申し送りの中で、利用者の人権を尊重する介護の在り方を話し合い、言葉かけや、声の大きさ、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアの実践を目指している。また、職員一人ひとりが自覚して、利用者が安心して、穏やかな暮らしが出来る介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	外部研修や医院の研修に参加している。また、新人 研修やスタッフ個人が決めて行う勉強会も行ってい る。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協議会の研修やグループホーム ネットワークの研修に参加している。情報を取り入 れサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めてい る	訪問した際にご本人の話を傾聴している。ご家族の 方の希望や要望など聞き少しでも安心して生活で きるように関係作りに努めている。ケアマネジャーやS W、主治医などと連携を図り情報収集を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	ホームを見学してもらった時に詳しく話を聞くように している。入居申込書に希望や要望の記入欄を設 けている。また、いつでも電話相談ができるように体 制を整えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	現在利用されているサービス内容を確認し、ホーム で行うサービス内容について説明を行っている。ま た、ショートステイを利用してもらい入居の時期など を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできる事は、出来る形で行ってもらえる ように促し、一緒に協力して行っている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	行事の日程を事前にお知らせし、家族参加を短時 間でもお願いして本人が家族と触れ合う時間を作っ ている。面会時には、最近の様子をお話して現在の 状態を理解して頂くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居前から付き合いのあった近所の商店街などに外出支援を行なっている。行けない時は、配達してもらっている。	契約時に、利用者の馴染みの関係や生活習慣を聴きとり、利用者の行きつけの場所で買い物や外出に出かけ、利用者が長年築いてきた、人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。また、ホームで仲良くなった利用者同士の関係や、職員との人間関係も、新しい馴染みの関係として大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、性格を考慮し座席を決めている。家事など入居者同士が協力してできるように促している。また、職員が間に入って孤立しないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も行事に参加してもらったり、電話相談を受け支援を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や反応、家族との会話の中で思いや希望をくみ取り、情報収集を行い意向に沿ったケアを行えるようにしている。	職員は利用者の日常生活の中から、利用者の思いや意向を聞き取り、職員間で情報を共有し、介護の実践に取り組んでいる。また、意思の疎通が困難な利用者には、職員が利用者に寄り添い、諦めずに話しかけ、利用者の表情や目の動きから、思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を引き出し、センター方式を使用生活背景の把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活されてきた状況や今現在の状態を把握し、その人に応じた生活ができるように情報の共有を行っている。身体状況に何か変化がある場合は、ケアの見直しを行い、早期に対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、センター方式を活用して介護計画書を作成している。その人らしい生活が送れるように本人、家族、スタッフ間で話し合いを行っている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、職員間で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体状況の変化など細かな情報までスタッフ間で共有し、ケアに活かしている。実践した結果を話し合い介護計画に役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に柔軟に対応できるように体制を整えている。定期受診にも同行している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている夏祭りに参加している。学生ボランティアや園児との交流も行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医と緊急時利用の医療機関の利用についての確認を行っている。訪問診療や定期受診の支援を行い、適切な医療が受けられるようにしている。	契約時に利用者や家族の希望を聴き取り、かかりつけ医の受診ををお願いしているが、行けない時は看護師が対応している。緊急時の対応は、看護師が病院に同行し、家族に報告している。母体が医療法人であるので、利用者への24時間の対応が整い、看護師と介護職員が協力し、主治医と医療情報を共有しながら充実した医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて適切なケアが受けられるように看護職員が昼間常勤している。入居者の異常や変化は看護職員のに報告し、24時間いつでも連絡がとれる体制を作っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、家族とこまめに連絡を取り、状態を把握している。退院前に病院に面会に行き、SWや看護師に話を聞き適切なケアが行えるように情報収集をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重症化した場合の意向について話し合いを行っている。入居者の状態の変化がみられている場合、その都度説明を行いケアの方針を考えている。日常から終末期についての話し合いを行っている。	ターミナルケアについて、利用者や家族に指針を基に説明し、ホームで出来る支援について理解を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と段階的に話し合い、主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者で方針を共有し、利用者が安心して暮らせる終末期の医療連携が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、実践できるように緊急時のマニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを作成し勉強会を行っている。	消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施し、夜間2人の夜勤者で、2階の18人の利用者が、安全に一時避難場所に誘導出来るように訓練している。また、非常災害マニュアルを整備し、通報装置や消火器の使用方法を確認し、避難経路、非常口、避難場所を確保し、いざという時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や生活環境を把握し、人格を傷つけないように言動に気を配っている。また、声かけのタイミング、大きさや内容など個人に合わせた方法で行っている。	職員は、利用者一人ひとりが持っている価値観や生活習慣を把握し、利用者の人格やプライバシーを尊重し、ホームでの暮らしが楽しいものになるように取り組んでいる。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えに耳を傾け、わかりやすい言葉で説明し、本人が自己決定できるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身状態や希望に応じ入浴やレクリエーションを行っている。本人が望む意思を尊重し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、洋服を選んでもらっている。行事や外出の際には、化粧を行っている。訪問美容を利用し、カット・パーマなど本人の希望にあわせて行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況や意欲に合わせて盛り付け、テーブル拭き、片付けを職員と一緒にしている。メニューを通し話題提供を行い、楽しい時間が過ごせるよう支援を行っている。	配食サービスを利用し、カロリーや栄養バランスの摂れた調理をして、利用者の残存能力に合わせて盛り付けや配膳、テーブル拭き等を手伝ってもらい、利用者と職員が、同じテーブルに座り、同じ料理を食べて楽しい会話の中で、利用者の食欲増進に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて食事の形態を変えて提供している。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を本人の飲むペースに合わせて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを行っている。利用者に応じてブラシやガーゼ、スポンジなどを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別のチェック表を使用し、排泄パターンを把握している。その情報をもとにトイレ誘導を行っている。日中は、トイレ介助を基本としている。	トイレで排泄やオムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がり、職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、タイミング良く声掛けやトイレ誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋がる排泄の支援とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように栄養バランスのよい食事を提供し、水分補給を一定量行っている。腸の運動を促すために毎朝体操を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は、決まっているが本人の希望やタイミングに合わせて入浴してもらえるように支援している。本人のニーズに合わせて香りや気分も楽しめるよう入浴剤を使用している。	入浴は利用者の希望を優先し、週2回から3回の支援に取り組んでいるが、毎日入ることも可能である。楽しい入浴が出来るように、香りの良い入浴剤を使用して、利用者と職員がゆっくり話が出来大切な時間と捉え、利用者の本音を聴き取っている。また、入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、清拭や足浴で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に応じて起床や食事の時間を変更している。その日の体調に応じてソファや居室で休息されるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ室にファイルを置き、いつでも確認できるようにしている。観察、情報の共有を行い、細かい変化についても対応できるようにしている。嚥下状態によって粉碎にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に合わせて家事や炊事などの役割作りを促している。個人が楽しめる趣味やレクリエーションなを楽しめる時間を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に行ったり公園に散歩に出かけたりと本人の希望に合わせて外出支援を行っている。	気候の良い時期は、近隣の散歩や商店街の買い物、公園に出かけ、利用者の気分転換に繋げている。また、幼稚園の運動会や地域の行事に参加したり、花見やドライブ等に出掛け、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、少額所持してもらっている。外出時は、本人が希望すれば職員と一緒に管理、所持し使えるようになっていく。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されれば、職員がダイヤルを押して話ができるように支援している。また、ハガキの宛名書などの支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色は、落ち着いた配色の物を使用している。温度、湿度の管理も行っている。花や壁の飾り付けを行い季節感を出すようにしている。	2階建ての2階部分にあり、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、季節毎の飾り物や生花を飾り、音や照明、温度や湿度、臭い等に注意し、全館バリアフリーを設置して、利用者が、安全に穏やかに暮らせる、明るくて過ごしやすい共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ、畳みを設けており、本人も気に入った場所で過ごせるように空間作りを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者のなじみの物やご家族の写真などを置き落着いて過ごせるような環境にしている。毎日、ごみ捨てや掃除を行い清潔な空間を保って、心地よく過ごせるようにしている。	利用者が使い慣れた馴染みの家具や布団、テレビや電気製品、家族の写真や鏡等の生活用品を家族の協力で持ち込んでもらい、自宅と違和感のないように設置し、利用者が安心して、穏やかに暮らせるよう配慮し、清潔で明るい居心地の良い環境の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「便所」「ゆ」などドアの色を変えて大きく表示する事でわかりやすくなっている。車椅子に移動する際立ち上がり安全に行えるようにベッドにL字柵を設置している。		